

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800196		
法人名	大和ケアサービス 株式会社		
事業所名	グループホーム 花うさぎ千早		
所在地	〒813-0044 福岡県福岡市東区千早4丁目13番27号 Tel 092-674-1800		
自己評価作成日	令和05年01月12日	評価結果確定日	令和05年03月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

駅からは徒歩圏内と利便性の良い複合型の福祉施設で、目の前には公園があり、ダイニングの大きな窓からは、公園が一望できます。コロナ禍ではありますが温暖な日などは散歩や制限がある中で行事も少しずつですが行っております。ユニット間には交流スペースがあり入居者が自由に往来でき面会時にはソファーに腰かけお話しもされております。食事は入居者様の希望や体調に合わせて職員が作り、栄養バランスも考えております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

千早駅周辺の開発が進む利便性の良い場所に11年前に開設した、定員18名の地域密着型グループホームである。目の前には緑地公園が広がり、コロナ対策以前は、天気の良い日にはホーム前の公園に出かけ、近隣の保育園児が走り回る姿や地域の方が行き交う様子を眺めることは、利用者の大きな楽しみとなっていた。入居年数の長い利用者が多く、重度化が進んでいるが、月2回のペースで主治医の往診と緊急時の対応、施設内看護師、訪問看護師との密な連携で、24時間利用者の健康管理を行い、安心の医療体制が整い、看取りの支援にも取り組んでいる。コロナ禍で外出レクリエーションや地域交流は自粛中であるが、利用者の要望に応じて中華料理屋を開き、模擬外食を楽しんでいただくなど、利用者の笑顔のためにレクリエーションの充実を図り、1日1日を大切に利用者へ寄り添っているグループホーム「花うさぎ千早」である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和05年02月08日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な環境の中、可能な限り自立して暮らせるように支援いたします。地域社会の一員として安心と尊厳のある生活を支援致します」この理念のもと職員同士で話し合いより良いケアを構築しています。	「家庭的な環境の中、可能な限り自立して暮らせるように支援いたします」「地域社会の一員として安心と尊厳のある生活を支援いたします」を理念の柱として掲げ、職員一人ひとりが理念の意義や目的を理解し利用者本位の介護サービスを目指し、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて外での交流が厳しくなり地域とのつながりもできていない状況です。近くの公園にて時折、散歩する際にすれ違う地域の方に挨拶をするくらいです。	新型コロナウイルス感染症対策のため、例年行ってきた法人合同の夏祭りやお茶会、地域の祭りや活動への参加、小学生の体験学習の受け入れ等、地域との交流は控えているが、ホーム前の公園に密を避けて出かけ、地域の方と挨拶したり、子ども達の遊ぶ姿を眺めて楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍での職員に向けた外部研修や内部研修を実施しておりますが、地域の方々への取り組みがあまり行えていない状況です。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて文章でのやり取りをしていたが、10月、12月は実施でき、意見交換も行えて次につなげることが出来ている。	運営推進会議はコロナ禍の中で、書面で行っている。利用者の状況や取組について報告を行い、委員からは、地域の行事や公民館活動についての情報提供や職員への励ましの言葉を受けている。出された意見や情報を検討し、ホーム運営や業務に反映出来るように取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告や変更があった場合など、書類作成し送付している。また、市からの通知文などで不明な点は、確認をしている。	管理者は、行政担当窓口へ、空き状況や事故等を報告し、疑問点や困難事例を相談する等して協力関係を築いている。運営推進会議に、地域包括支援センターや行政職員の参加があるが、現在はコロナ禍のため、対面を自粛して書面会議となっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を年に3回ほど実施し、全職員に禁止行為などを理解して頂き、正しいケアに努めている。	施設全体研修で身体拘束について学ぶ機会を設け、各部署に持ち帰り、各運営会議の中で研修を行う等して周知を図っている。禁止行為となる具体的な事例を挙げて検証し、職員同士でチェック体制を整え、身体拘束をしない、させないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に3回ほど勉強会を実施している。見過ごされることがないように職員全員に声かけし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人の方が入居者様のご家族でおられるため、制度について学ぶ機会がありますが研修などに参加して理解を深める必要があります。	権利擁護制度の研修を学ぶ機会を設け、職員一人ひとりが理解できるように取り組んでいる。また、制度に関する資料やパンフレットを用意して、必要時には利用者や家族に説明している。現在、成年後見制度を活用している利用者があるので、後見人とのやり取りを通して制度の内容の理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様に疑問や不安を与えないようにわかりやすく説明を行っています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などで要望や意見を伺い運営に反映しております。	職員は利用者の意見や要望を聴き取り、実現に向けて取り組んでいる。コロナ禍で家族の面会も制限されている為、これまで以上に家族とのコミュニケーションを取りながら意見や要望を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。また、「花うさぎ千早だより」を家族に送付し、ホーム運営や利用者の暮らしぶりを伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	限られた時間の中で、個々に業務などについて意見及び提案事項を伺い次につなげている。	コロナ禍の中で密を避ける為、毎月定期的に開催していた職員会議を中止して、申し送りノートで情報を共有している。管理者は職員の意見や要望、心配な事等の把握に努め、出された案件や勘案事項を管理者会議で取り上げ、代表に相談する等して、ホームの運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	限られた職員配置のなかで、急に休んだ職員などがいた場合には、協力して人数確保が出来るようにしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員一人一人の能力にあった業務を提供している。また、生き生きと働けるよう職場内環境整備にも取り組んでいる。	外部の研修会に職員の経験や習熟度に合わせて参加を促し、資格取得のためのバックアップ体制を整え、職員が向上心を持って働くことのできる就労環境である。職員休憩室やロッカーを整備し、休憩時間や休暇の確保、職員の事情に応じた勤務体制等、柔軟に配慮して、職員が働きやすい環境作りに取り組み職員の離職は少ない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	月1回のカンファレンスやミニカンファレンスを開き全職員に人権教育及び、啓発活動に取り組んでいる。	利用者の人権を守る介護サービスについて、法人内研修や運営会議の中で常に話し合いを行っている。職員は、言葉遣いや対応に注意し、利用者が毎日安心して過ごすことが出来るように支援している。また、常に理念を振り返り理念に基づいた介護が出来ているかを確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部研修は限られておりますが、内部研修については月1担当になった職員が自ら調べ研修を開いている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和4年度より東区内だけでのグループホーム交流会が開催され、定期的に参加し意見交換している		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様とも目線を常に合わせしっかりとコミュニケーションをとりながら寄り添いボディータッチや手を握ったりして安心感を確保し会話一つ一つに対してもキャッチボールをしながらうなづくようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様がお話した内容をしっかりと受け止め不安を与えないよう対応策をわかりやすくお話しする。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態観察もしっかりとしたうえで、ご家族様にも話を伺い必要な対応策を提供している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な環境の中でお互いに協力し合いながら生活をおくっている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には家族と本人との大切な時間をもうけており、コロナ禍でもあるため、ご家族様が出来ないところは職員がおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会ではそれぞれご家族様がお見えになっている。 馴染みの場所などは、コロナ禍の為、行くことは出来てないが、会話をしながら馴染みの場所が出てくる。	コロナ対策以前は、家族や友人、知人の面会も多く、ゆっくり寛げるように支援していた。新型コロナウイルス感染症対策のため、面会も制限され、馴染みの場所への外出も自粛している状況であるが、電話やテレビ電話で話をする機会を設けたり、手紙のやり取り等、これまでの関係が継続できるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立にならないように声掛けをして同席の方同士や一箇所に集まったりしてコミュニケーションをとられている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は本人様の書類などは大切に保管し、いつでも経過フォローが出来る体制はとっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にあセスメントやモニタリングを行い検討している。	職員が定着し馴染みの関係を築く中で、利用者の思いや意向を聴き取り、職員間で情報を共有し介護サービスに反映させている。意向の表出が難しい利用者には、家族に相談したり職員間で話し合い、職員が利用者に寄り添いその表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現在生活をしている中で、カルテ及び昔の活動歴などをご家族様に伺い把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	血圧測定及び状態観察を定期的実施している		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員を各入居者様の担当に割り振りしモニタリングの作成 本人、家族、関係者での意見をケアプランに反映	職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら、意見や要望を聴き取り、担当者会議の中で職員間で検討し、利用者本位の介護計画を3～6ヶ月毎に作成している。また、利用者の重度化や状態変化に合わせて、その都度介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	随時、情報の共有をし実践及び介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多職種との連携を密に行いながら柔軟な対応支援に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にていくらか制限はありますが、訪問歯科や訪問診療など来られている 今後も入居者様も豊かな暮らしを楽しんで行けるよう地域で支えあうシステム作りに努めていければと思います。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診する際は本人、家族の意見を尊重し実施	入居時に利用者や家族の希望を聴いて主治医を選択して貰い、協力医療機関医師による月2回の往診と法人内看護師、訪問看護師、介護職員の連携で、24時間利用者の健康管理を行い、安心の医療体制が整っている。また、希望があれば、家族が直接主治医と話ができる機会を設けている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要な時には、職場内看護師や訪問看護師に相談している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は病院関係者の連携室と情報交換している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に近い入居者様などはかかりつけの先生とも相談したうえで、ご家族お話ししドクター交え方針の共有をしている	契約時に、重度化や終末期に向けた方針について利用者や家族に説明し、希望を聴いている。利用者の重度化に応じて家族と密に話し合い、主治医と連携しながら、希望があればホームでの看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス時に対応法を説明しているマニュアルがあるので見ながら実施してる。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回いる。防火訓練を実施しそこで職員には周知している。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、すぐ近くから消防車が到着するまでの間に利用者全員を2階の一時避難場所に避難誘導する体制を整えている。地域の防災訓練に職員が参加し、防災協力事業所として登録している。また、災害時に備えて、非常食、飲料水を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格及び意思を尊重し言葉かけに注意を払いプライバシーを傷つけないよう支援している。	利用者一人ひとりのプライバシーを守る介護の在り方を、内部研修や運営会議の中で話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮した、その人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については管理者が繰り返し説明し、確認を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場の雰囲気や環境などにも目を配りながら自己決定できるように働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人様のペースに合わせ、日々の暮らしを不安なく過ごせるよう時にはお伺いをたて希望に沿った支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服を着替える際は、本人に選んでいただき決めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時にはBGMを流しながら、食事を提供している。また、食べ終えた食器類を入居者様もできる範囲でお手伝いして頂いている。	栄養バランスやカロリー計算された食材が配食され、職員が調理して利用者一人ひとりに合わせた形状(ミキサー食、きざみ、普通食)で提供し、楽しい食事が出来るように支援している。外食が出来ない利用者の為にホーム内での模擬外食店や芋煮会を実施する等、食べる事を楽しむことが出来るように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食割り表や水分表をつけ一日のトータルがわかるようにしている。また、その方に応じて、制限をしたら衣		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月4回歯科往診が入り口腔ケアを実施しています。また、食後は状態に応じた口腔内ブラッシングをしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に排泄時の有無や形状を記入しているそれぞれの排泄パターンに応じて、臨機応変に対応している。	利用者が重度化してもトイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、声掛けや誘導を行い、失敗の少ない排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間は利用者の希望を聴きながら、トイレ誘導を行ったり、ポータブルトイレを使用する等、オムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方にはお薬での調整有体操を促し、お腹を中心に動かすなど行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状態に合わせて気持ちよく入浴できるように支援している。	利用者の希望や体調に配慮し、いつでも入浴出来る体制を整え、おむね週3回を基本として支援している。足浴や清拭、併設事業所の機械浴も取り入れ、利用者が重度化しても入浴出来る環境を整えている。入浴は職員と利用者が一対一で会話をしたり、ボディチェックが出来る機会として大切に関わっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調に合わせて午前で休まれる方もおられれば昼寝をされる方もいらっしゃいます。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を職員間で把握し状態状況を確認しながら、間違いがないよう安心して提供できる体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合わせたレクリエーションの提供を行い気持ちよく過ごせるよう働きかけている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出する機会が減り制限がある中で、外泊及び外出や散歩をご家族様と協力しながら支援しています。	新型コロナウイルス感染症対策のため、人混みへの外出は控えているが、天気の良い日には目の前の公園に散歩に出かけ、利用者の気分転換と下肢筋力低下防止に努めている。保育園が近くに2園あり、利用者は、公園で走り回る子ども達を眺めることを楽しみにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、職員側で管理しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る方は限られますが、電話をかけたり手紙を書く際の出来ない部分の支援をしております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせた壁画を作成し壁に張ったり、なじみのある歌などを流して心地よく過ごして頂く支援に取り組んでいます	館内は、音や照明、温度、湿度、換気に配慮し、清掃が行き届いた清潔感のあるゆったりとした共用空間である。交流スペースを中心に、左右対象に各ユニットが位置しており、季節の飾り物や利用者の笑顔の写真を飾り、それぞれが家庭的で居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内でお互いのテーブルを行き来されたり、居室でお話をされたりしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様ご家族様と相談しながら、なじみのあ物を配置されたりと自由に使って頂き居心地の良い空間作りに取り組んでいます。	利用者が長年使い慣れた家具や身の回りの物、仏壇や家族の写真等大切な物を持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、本人が安心して過ごせるように支援している。また、利用者一人ひとりの状態に合わせて危険のないように家具を配置する等、安全面にも注意して取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方にあつた支援をしっかりと見つけていければと思います。		